椰子の樹

長野県ニューギニア会 会報

第14号

平成26年1月20日発行
長野市戸隠祖山1175
発行人　横田　久
印　刷　神林印刷

恒久平和の願いを後世に伝えたい

ニューギニア会　会長　横田　久

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員、ご遺族の皆様方におかれましてはお健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の長野県ニューギニア会の事業および行事は、皆様のご協力とご支援を頂きながら、ほぼ計画どおりに進めることができましたことを厚く御礼申し上げます。

本年も2月の通常総会、春の「嗚呼戦友の碑」の改修、7月の慰霊大祭、秋の現地慰霊巡拝団派遣など皆様の積極的なご支援とご参加を受けながら計画を推進して参りたいと願っております。

さて、昨年の事業をふりかえってみますと、「戦友の碑」改修につきましては、護国神社のご理解を頂きながら当会改修委員会で計画を進めて参りました。事業の推進にあたり心配された高額の工事費用については、会員はじめ各方面の皆様方から多額のご芳志を賜り予定費用の見通しがたちましたことをご報告いたし、重ねて厚く御礼申し上げます。

現地慰霊巡拝については、昨年度は残念ながら催行できませんでした。会員の高齢化による希望者の減少、現地国の治安状況への心配、為替レートの変動による費用の上昇などの要因もありました。

本年度も栃木県護国神社や旅行業者と協力しながら催行の実現にむけて準備を進めて参ります。

話題は変わりますが、当会のホームページがとりもった縁で、昭和20年9月にウエワクで行なわれた『降伏調印式に臨む第18軍安達司令官の写真』が、本会の仲介により東部ニューギニア戦友会の堀江正夫会長に託されました。詳しくは次項をご覧ください。

今年は戦後69年、平和の尊さ、戦争のはかなさを知っている年代の人々が減り、戦後生まれが人口の7割を占めるそうです。

特定秘密保護法も先の国会で可決され、日本の将来に向けて危機感もささやかれている中で、『南十字星の下、散華された将兵の想いを無にすることなく、恒久平和の願いを後世に伝えたい…』という遺族、会員の願いを支えにしてその責務を果たしてまいる覚悟でございます。

年頭にあたり、皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げてご挨拶といたします。

▶ウエワクでの降伏調印式に臨む安達中将（左）と参謀

降伏調印式の安達中将の写真

本会の仲介でPNGから

パプアニューギニア国駐日大使館主催の、PNG独立記念式典が去る9月13日、東京・ホテルニューオータニで開催され、本会から横田会長、小池副会長が出席した。

この日会場では青年海外協力隊員として、6月までPNGの小学校で教師をしていた、愛知県出身の近藤隆昌さん㉙から横田会長に一枚のモノクロ写真が手渡された。写真は、近藤さんが2年間赴任していたウエワクのセントメリーズ小学校の校長先生が、大切に所持していたもので、「旧日本軍の司令官が、降伏文章に調印した際の写真」とされ、日本に持ち帰って欲しいと、プレゼントされた。

帰国を目前にした近藤さんは、歴史的に貴重な写真であると考え、横田会長宛に「私が保持するより、日本の適切な場所で管理してもらいたい」と、当会のホームページにメール便で相談を持ちかけてきた。

横田会長は近藤さんの意向をくみ、仲介の労をとるため、東部ニューギニア戦友遺族会の堀江正夫会長に相談して結果、「是非とも拝受したい」との意向が得られたことから、この日の面会が実現した。

PNGから託された写真を受け取る横田会長と近藤さん（右）

近藤さんが横田会長に手渡した写真は、はがきサイズで、68年の歳月が経過してセピア色に変色していた。終戦まで、東部ニューギニア方面の作戦を指揮した第18軍司令官・安達二十三（はたぞう）陸軍中将が、参謀と共にウエワクのケープ岬において、連合軍との降伏調印式に臨んだ時（昭和20年9月13日）のものであることも確認された。

写真はこの日、会場に列席していた堀江会長に、横田会長から手渡されたが、堀江会長は昭和18年11月東部ニューギニアに出征、翌年5月からは第18軍作戦参謀（少佐）として、安達中将のもとでニューギニア作戦を支えた。戦後は陸上自衛隊幕僚長、参議院議員などを歴任、今年99歳になる。

堀江会長は「貴重な写真を現地の人が、68年間も大事に保管してくれていたことに頭が下がる。連合軍が撮影した写真をどうして手に入れたのかも知りたい。当時の将兵が、住民と友好的に接していたということも背景にあるのでは」と感慨深げに写真に見入り、「仲介の労をとってもらった長野県ニューギニア会にも感謝したい」と、語った。

「鳴呼戦友の碑」春には改修着手

～皆様の温かいご寄付を受けて

碑改修委員会

前回の総会で決定したことではございますが、昨年の9月に『鳴呼戦友の碑』改修費用に関してご寄付をお願いいたしましたところ、大勢の皆様方から心のこもった温かい浄財を頂戴し有難うございました。ご寄付頂いた金額の集計につきましては、25年12月現在もご送金が続いておりますので最終的なご報告は改めてさせていただきます。

今回は改修工事に関して現状についてのご報告をさせて頂くことに致します。

さて、皆様からの資金を元に、工事に着手するわけですが、予算の有効な活用のためにも複数の工事会社に照会して見積りを依頼、現在、金額、工法などの詳細について作業中でございます。この会報が皆様のお手元に届く頃には結論が出ているものと思います。

改修の形状につきましては紙面ではなかなかお判りになりにくいとは思いますが、概要についてご説明させて頂きます。

工事期間は約2週間ほど考えており、

①石碑の吊り上げ移動、仮置き作業で約3日。

②周囲の石組み、撤去作業で約6日。

③石碑再構築作業で約4日。

が予定されています。

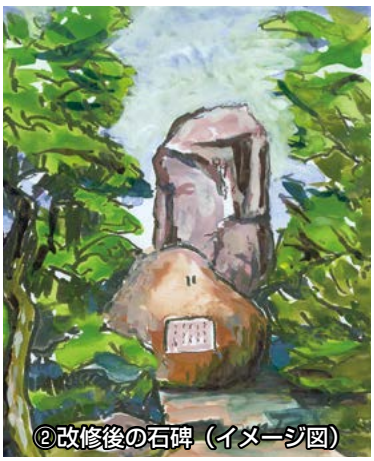
作業は、まずに石碑本体を吊り上げて移動仮置きし、積み上げてある周囲の石組みを撤去（写真1～4数字の打ってある石）

①石碑の現状

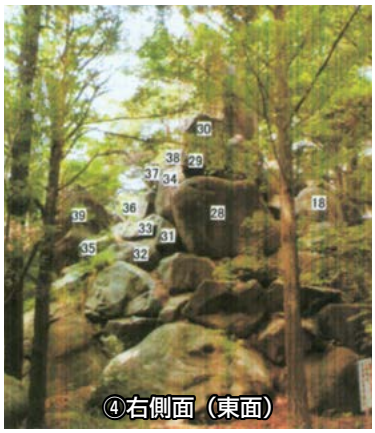
撤去終了後に、石碑の根元の基礎コンクリート部分を造り直してから、仮置きしてある碑を再設置、間詰コンクリート（早強）打設します。そして養生期間を経て作業完了となります。

撤去する石については、数量が39個が予定され、体積はおおよそ77㎥、重量は概算で232㌧という規模のものです。

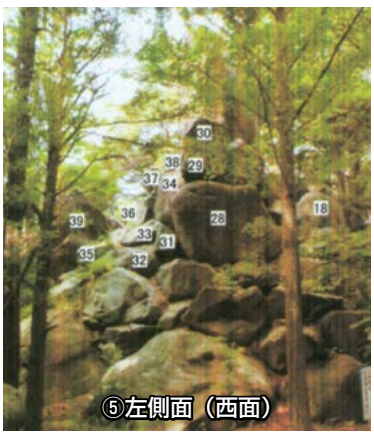
工事費用は概ね七百数十万円と考えられますが、費用の中で占める大きな部分は作業用のクレーン車（予定では160㌧車1台、80㌧車1台）の賃料です。仮に160㌧クレーン車を使用した時はメインビームとカウンターウエイトを外す必要があり、現場で組み立ててから使用するという巨大な代物です。建設した当時は無かったような大型クレーン車ですが、推定38㌧の石碑を安全に吊り上げて移動させるためには、現在の法規や作業の安全面から必要とのことです。


②改修後の石碑（イメージ図）

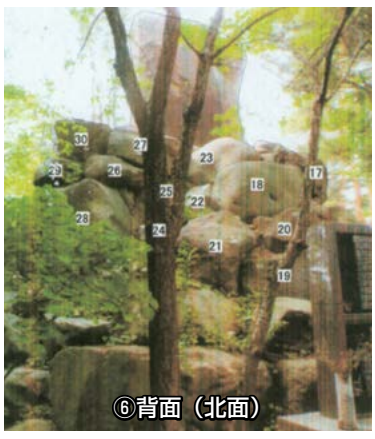
③正面（南面）



④右側面（東面）



⑤左側面（西面）



⑥背面（北面）

全国に類の無かった、見上げるような素晴らしい碑を造り上げた、故大久保豊初代会長や当時の役員、戦友、ご遺族の方々の熱意を、心して受け止めながら安全に作業を完了させ、今後とも平和を願い、かつ、英霊への鎮魂の場として末永く守り続けたいと思います。

新しく物事を進めるためのお願いでなく、歴史ある今ある物の、縮小、改修という後ろ向きな事柄にも関わらず、多額なご寄付を下さいました皆様には改めて厚く御礼申し上げ、以上ご報告を申し上げます。

↑番号の付いている石は撤去予定の石

第45回戦没者慰霊大祭報告

長田健治

長野県ニューギニア会主催の第45回ニューギニア方面戦没者慰霊大祭は、7月28日松本市の長野県護國神社で開催されました。

大祭には、灼熱の戦線から生還された2名の戦友会員を含めた会員および遺族87名が参加、来賓として国会議員、県議会議員の代表や県内市町村長、長野県遺族会会長や理事など多くの方々がご列席されました。

慰霊大祭は、神社本殿で正午から始まり、英霊に対する黙とう、国家斉唱、宮司による祝詞奏上に続き、横田会長が「祖国の安泰と家族を思いつつ、ニューギニア島と南太平洋の周辺地域で戦没された英霊を顕彰し、戦争の悲惨さを風化させることなく、長く後世に伝えることが会員としての使命です。」と祭文を奏上いたしました。

続いて菅谷松本市長、櫻井長野県遺族会長の慰霊のことば、国会議員や県議会議員など来賓のご挨拶を頂戴いたしました。

また、昨年10月に催行した第34回東部ニューギニア現地慰霊巡拝に参加された峯村契子さん（麻績村）が、慰霊巡拝報告を行い、「遠く酷暑の地で父たちは、冬の寒さの厳しいふるさとを思い愛する家族の安寧を願いながら、悲しみの涙を流し命を終えたことでしょう。」と慰霊の旅での感慨を切々と述べておられました。

①

最後に、参加者全員で「ラバウル小唄」、「ふるさと」を斉唱し、次回の慰霊大祭でも元気で再会することを誓い合いました。

参加者の控室となった美須々会館では、大久保事務局長から、昨年1月政府派遣の遺骨収集団の一員として、東部ニューギニアを訪問した際の現地報告がありました。大久保さんは、現地で撮影した写真パネルを前に「元将兵の遺骨が、いまだに密林に眠っていることにさみしさと憤りを感じました。」と振り返っていました。

②

③

当日は本慰霊大祭と遺骨収集団活動について「信濃毎日新聞」社の記者による取材があり、新聞紙面で「東部ニューギニアでの第2次旧日本軍戦没者の遺骨収集事業。全国12名の団員のうち県ニューギニア会から2名の会員が参加し、ニューギニア島東部の集落の人たちが集めた、旧日本兵の遺骨を収容、現地で荼毘に付され、95柱が祖国に帰還されました。これらの遺骨は、今は東京千鳥ヶ淵の戦没者墓苑に眠っておられます。」と当ニューギニア会の紹介と併せ県内に報道されました。

その後、横田会長から『嗚呼戦友の碑改修委員会』の活動について説明があり、「改修経費を専門業者に見積もってもらったところ、会が準備している経費が、約200万円不足しており、広く会員の皆さまにご寄付をお願いしなければなりません。工事費の手当のめどがたてば、26年2月11日、次回の総会の終了以降工期を10日間程度とした改修工事を実施するように計画いたします。」と発表されました。この件に関しては、後日役員会の承認のもと、改修委員よりご寄付のお願いの文書を全会員に送付し、協力を要請することが了承されました。

④

①東部ニューギニア現地慰霊巡拝報告をされる峯村さん
②遺骨収集団の一員としての活動報告をされる大久保事務局長
③遺骨収集活動の現地報告用パネル
④慰霊大祭と遺骨収集活動について新聞記者の取材をうける横田会長

「鳴呼戦友」石碑の改修に思う

幹事長　安川叡春

建立から四十余年、私ども長野県ニューギニア会会員の戦友・遺族の心の支えでもある慰霊碑が、神社側のご理解も頂いて、規模（高さ）の縮小と安全改修のために工事が行なわれることになり、次の世代への存続が認められたことは何より嬉しく思います。加えて改修費用へのご寄付の呼びかけにもいち早く応えていただき、早くも目標に達しつつあるとのこと、関係者の皆様に心より敬意を表します。

現在、護国神社境内の慰霊の森には幾つもの慰霊碑が建立されています。石材、石組み等の立派な碑もあれば、小さな石柱に○○部隊と刻まれた碑もみられます。立派な碑にもひび割れが目立ち、小さな碑などは土に埋もれたようになっているのもあります。どの碑に関しても例外なく戦友・遺族の減少と高齢化によって維持管理が難しくなってきているのが目に見えるようです。私どものひときわ大きな石碑にも同じ状況が生じることでしょう。

神社としても、今のうちになんとか対策をして欲しいといわれることももっともなことだと思います。

わたし自身、夏の慰霊大祭の前日には、準備と清掃のお手伝いで石碑に登り作業をしていますが、岩山のような巨石に登るのは体力と勇気が必要でした。特に最近では、歳を重ねたため高いところは怖くなり、危険を恐れて作業場所はどうしても低いところになってしまいます。「安全で維持管理のやり易い、そんな石碑に変身できればいいな…」と切に思います。

石碑とともに四十余年、慰霊と世界平和・友好を理念として歩んできた長野県ニューギニア会の道程と願いが込められた碑は、

参拝に訪れた方たちが、ふと足を止めて祈りを捧げてくれる―。

子や孫がちょっと立ち寄って花を飾ってくれる―。

そんな温もりのある、いつまでもみんなに愛される慰霊碑にしたいものです。

事務局から

▽会員の皆さまには、日頃から積極的に会の円滑な運営にご協力をいただき、会費の納入などで財政を支えて頂きまして厚くお礼申しあげます。

会員の名義変更や、転居などの異動がございましたら、早めにご連絡をいただけると助かります。

また、会費の納入が困難な場合は、ご遠慮なく会計担当までご一報ください。

会計担当　長田
電話０２６・２４１・４３５６

▽**新規会員のご紹介**

昨年度、次の方が新たに入会されました。（敬称略）

・池田　毅（佐久市）

▽**ご寄付有難うございました**

昨年度中に寄付をお寄せいただいた方々にお礼申しあげ、そのお名前を掲載いたします。（敬称略）

（慰霊大祭玉串料、その他一般寄付）

・青木　敬子　・稲垣　一良
・小沢やえ子　・五月日輝雄
・高見沢袈裟久・保木野道之
・三澤　卓夫　・宮下　美保
・両角　治郎　・横田　久

なお、本年はこのほか当会が長野県護国神社に建立してある「鳴呼戦友」の碑の改修を計画しており、広く会員の皆さまにご寄付をお願いしていますが、12月10日現在284名の会員からご協力いただき、目標を上回る改修資金を準備することができました。皆さまの温かいご芳志に厚くお礼申しあげます。

（石碑改修のためご寄付頂いた結果は、追って総会および次号会報において報告いたします。）

＊総会開催のお知らせ

長野県ニューギニア会の規定により、第46回通常総会を左記のとおり開催いたします。

記

日時　平成26年2月11日㈷
　　午後2時から
会場　浅間温泉　ホテル井筒
　松本市浅間温泉1―29―17
　電０２６３・４６・１１２０

大勢の会員の皆さまのご参加をお待ちしております。

編集後記

◎明けましておめでとうございます。今年も『椰子の樹』のご愛読とご支援を編集委員一同お願い申し上げます。

◎『鳴呼戦友』の石碑改修の計画が進み改修委員会から報告がありましたので紙面に載せました。山のような巨石群と取組む工事、安全作業で完成を願っています。

◎遺骨収集支援の大久保さんお疲れさまでした。土の中の遺骨の可哀相、遺骨を始末する人も辛かったでしょう。

◎このところアベノミクスの凸凹。大企業は株価は上がるけれど給料は上げたくない、企業の税金は下げる、消費税は上がる、年金は下がる…。これでほんとうに豊かな生活ができるのでしょうか？そういえば年金生活者のことに、政府もマスコミも触れませんね。

◎秘密保護法が発足。戦前・戦中・戦後を経験した編集子、押入に入ってジャズを聴いたことを思い出しました。その内「大本営発表…」なんて飛び出して来そうです。

◎今年の干支は午、縁起のいい動物とか。どうか会員の皆様がたが万事ウマくいき、良いことが駆け込んでくる一年になりますように。

（竹村）